

“2025年の崖” 超える DX 推進のヒント

電算システム IDC 編集部



はじめに

2018 年 9 月に経済産業省から発表された『DX レポート～ IT システム「2025 年の崖」の克服と DX の本格的な展開～』から 3 年半が経過するとともに、コロナ禍の影響もありデジタル化の波が中堅・中小企業にも否応なく押し寄せています。

差し迫る“崖”から落ちないためには、既存システムを DX で活用できるものへの再構築や、新システム構築などの変革が必要となっています。

株式会社電算システムでは、地方銀行との合併会社設立やシステム開発会社をグループに加えるなどし、企業や行政のデジタル化および DX 推進のために体制を強化しています。



ヒント

01

クラウド上であらゆるサービスを提供している Google Cloud とは

新型コロナウイルスの流行で、テレワークとオフィスワークを組み合わせたハイブリッドワークへと働き方が変化しています。

ハイブリッドワークは、コロナ禍における感染リスク対策のほか、従業員の“働き方改革”や“ワークライフバランス”を実現できる一方、仕組みやルールを整えずに導入すると、オンラインとオフラインでのコミュニケーションの断絶など、業務へ支障をきたすリスクがあります。

ハイブリッドワークを円滑に実現するためのグループウェア関連ツールは世の中に数多く提供されていますが、Google 社が提供する Google Workspace はハイブリッドワークを定着・成功に導く仕組みを実装しています。

主な特徴とメリット

すべてのアプリが
オンラインアクセス

働く場所にとらわれない為、
従業員のモチベーションの向上

豊富なコミュニケーションツール

最適な環境で仕事ができ、
生産性が向上

Google アプリの
共同編集ツールの活用

ワークスペースの選択で
従業員が主体性を持って行動

弊社では Google 社の黎明期から協業を推進し、数多くの成功と失敗を経験した歴史を持ち、現在では 2500 社を超える導入実績を積み重ねてきています。Google 専門技術チームを持ち、中でも Google Workspace 技術者は国内でも有数の資格保有者を要しており、お客様の業務を支援しています。

ヒント

02

事業継続視点のセキュリティ対策

2022 年 3 月 1 日、トヨタ自動車の国内全工場が停止したのは記憶に新しいところと思います。

主要取引先の部品メーカーがサイバー攻撃を受け、被害拡大を防止するために外部とのネットワークを遮断したことで、部品の受発注システムが止まったことによる影響だったということです。

この事案は、セキュリティの弱い取引先企業を狙って被害を拡大させる“サプライチェーン攻撃”との見方があります。

DX を実現できないと転落する「2025 年の崖」を乗り越えるためには、システム連携やデータ連携による生産性向上や付加価値創出が必須です。

自社の脆弱なセキュリティ対策が“蟻の一穴”となり、事業継続が不可能な事態に陥らないよう、適切なセキュリティ対策を実施する責任が高まっています。



ヒント

02

事業継続視点のセキュリティ対策

これを入れておけば大丈夫という対策は無い

よく弊社にはトータルでセキュリティを担保した環境を作りたいとの依頼がございます。
しかし残念ながらそのようなセキュリティソフトはございません。

近年ではゼロトラストの仕組みが主流化しております。

※ゼロトラストとは

今までの「信頼し、必要な検証だけする」という戦略から

「信頼せず、全て検証する」という戦略への移行を提唱するもの

工場・会社を 1 人の社員だと仮定し、サイバーウイルスを病気と仮定した場合、
病気にならない為に適応した様々な対策を行わなければなりません。

マスク

入口・出口対策

ワクチン

エンドポイント
セキュリティ対策

定期健診

セキュリティチェック

この 3 点のバランスを保つことで、感染を防止しリスクを低減する事が出来ます。

ヒント

02

事業継続視点のセキュリティ対策

まずは現在どのような状態かを把握する

現在のセキュリティ対策を“第三者の目”から評価を受けることをお勧めします。
まずは定期健診を受診し、現状を理解する事で今すべき事が視えてきます。

当社の場合、独自のセキュリティアンケートから不足しているセキュリティ対策を洗い出し、
優先度に基づいた対策の実施をご提案しております。

セキュリティアンケート 問診例



御社のパソコンや会社支給のスマホなど
情報機器の OS やソフトウェアは常に最新の状態にしていますか？



重要情報が記載された書類や電子媒体を持ち出す時は、
盗難や紛失の対策をしていますか？



外部から社内ネットワークへの許可しないアクセスを
防ぐ仕組みを導入していますか？

当社はお客様のセキュリティ対策をご支援しているほか、DX 推進のお手伝いをさせていただいております。
ご興味がございましたら、以下サイトのお問合せフォームよりお気軽にお問合せください。

<https://www.dsk-idc.jp>

ヒント

03

多拠点データ収集

注目されるエッジコンピューティング

DX、およびデジタル化は全ての産業の根幹となり、「2050 年カーボンニュートラル」を達成するため作成された“グリーン成長戦略”や地方創生、少子高齢化などへの施策は DX 無しでは解決できません。

加えて、IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボットがキーワードとなる「Society 5.0」を実現するには、様々な情報（データ）を低遅延で高速に処理するデジタルインフラが必要とされています。

しかしながら、国内データセンターの 8 割が関東圏及び関西圏に設置されており、物理的な距離の影響で遠隔地からのデータ転送の遅延が発生してしまいます。

これを避ける技術として、端末に近い領域でデータ加工や分析などの一部をリアルタイム処理する「エッジコンピューティング」が注目されています。

エッジコンピューティングのメリット

1

低遅延（低レイテンシ）の実現

2

ネットワーク負荷の軽減

3

分散処理によるメインサーバ負荷軽減

当社は岐阜県内に 2 拠点データセンターを構え、東海地区のエッジコンピューティングに必要な通信環境とサーバ環境を備えています。

AWS や GCP などのパブリッククラウドへもセキュリティ強度の高い通信網で直接接続できる「BizCrossG@te（ビズクロスゲート）」によるソリューションを提供しております。

更に、データ収集に必要な足回りのネットワークもデータセンターで一元管理しており、端末拠点のサポートも充実しております。

ヒント

03

多拠点データ収集

エッジコンピューティングの事例

遠隔デバイスのデータをほぼリアルタイムに処理

大量データの収集と一次処理をIDCで実現

- メインサーバ環境のトラフィック最適化と安定化を実現
- 負荷分散により遅延の少ないリアルタイムなデータ処理
- 作業担当者が設置場所へ出向く移動時間と作業量の削減
- 迅速な販売分析情報に基づく機会損失低減

トラフィックの
最適化・安定化

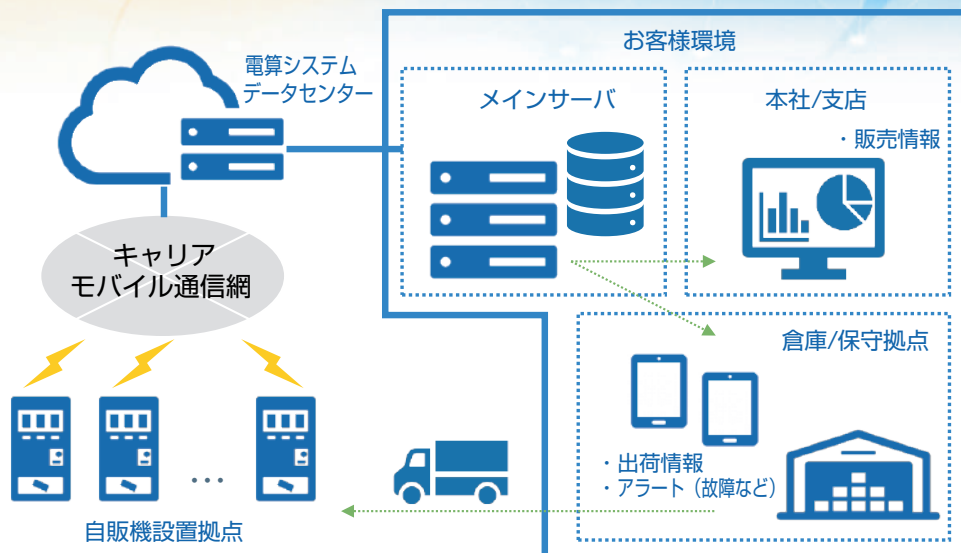
サーバ負荷軽減

負荷分散

リアルタイムデータ処理

ネットワークとエッジデータセンター

- 自動販売機の販売情報、在庫情報などをリアルタイムに情報収集
- データセンターで一次処理し、メインサーバへデータ送信
- 自販機～電算システム データセンター間の通信環境を構築



ヒント

03

サイロ化したデータを統合する ネットワーク

DX の根底には「あらゆるデータがつながる」という前提があり、データ伝送のための安全なネットワーク構築が重要となります。

企業では部門間連携や業務のデジタル化が進み、これまで“疎遠”だったデータを相互につなげ、新しい価値を創造しようと取り組みが始まっています。

オンプレ、データセンター、クラウドなどの環境を相互接続し、様々な ICT リソースへのセキュアな通信を実現する『BizCrossG@te（ビズクロスゲート）』が、サイロ化したデータを統合するネットワーク基盤として反響を呼んでいます。

BizCrossG@te 4つのメリット

1

様々なクラウド基盤に対応
(BizGr@nd、AWS、Azure、GCP 等)

2

閉鎖環境でセキュアなクラウド間連携

3

帯域確保型のネットワークを月々固定料金で利用可能

4

データセンターとの接続でコロケーションとクラウドとのハイブリッド構成にも対応

例えば DX 推進のため、データ統合とデータ分析の基盤を GoogleCloud に構築しようとした際、サイロ化したデータを安全に伝送するネットワークをスピーディかつ容易に構築することが出来ます。

当社は、ネットワーク構築及び最適化の実績を数多く有するとともに、Google プレミアムパートナーとしての知見も持ち合わせ、皆様の DX 推進をご支援いたします。ネットワークの見直し、課題解決、DX 推進に関して「何をしたいかわからない」などのお悩みやご相談等ございましたら、お気軽に以下のサイトよりお問合せください。

<https://www.dsk-idc.jp>

迅速な DX 推進に不可欠なクラウドネイティブ

最後にお伝えしたいことは、実は業務のデジタル化が進むことを何でも DX と呼んでいませんか、という問いかけです。

DX を推進しているのであれば“デジタル技術を活用してビジネスモデルを変革し、競争上の優位性を確保している”状態にあると言えます。

この様な企業では新サービスを続々と開発し、機能改善や顧客要望による頻繁な変更要求に対して、迅速な改善に対応可能なアプリケーションには「クラウドネイティブ」技術が採用されています。

ビジネスの柱であり、収益獲得の手段である IT サービスを効率よく迅速に提供するには、柔軟性があり、回復力の高い IT インフラが欠かせません。

電算システムは、Google Cloud に関する深い知見と設計思想により、クラウドネイティブ時代に最適な IT インフラ構築を実現します。

当社のパブリッククラウド間をセキュアな閉域網で接続するサービス「BizCrossGate」は、Google Cloud、AWS、Azure などマルチクラウド環境をセキュアでシームレスに接続し、クラウドサービスの“いいとこどり”が出来るネットワークで DX 推進に寄与するものと考えます。

クラウドネイティブ技術による DX 推進支援のほか、IT インフラ全般、ネットワーク見直し、課題解決などで「何をしたらいいかわからない」などのお悩みやご相談にも対応いたします。

お気軽に以下のサイトよりお問合せください。

<https://www.dsk-idc.jp>



会社名

株式会社電算システム

会社案内

1967年に岐阜県で創業して以来、独立系総合型情報処理サービス企業として、情報処理サービス事業と収納代行サービス事業の2つの分野で事業を展開しています。官公庁をはじめ、製造・流通・金融証券などの顧客層に対して、企画から設計・開発・運用管理まで一貫して取り組み、ベストソリューションを提供しています。

お問い合わせ窓口

岐阜本社 〒501-6196 岐阜県岐阜市日置江1丁目58番地
TEL 058-279-3481 FAX 058-279-3487

東京本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀2丁目20番8号八丁堀綜通ビル
TEL 03-3206-1780 FAX 03-3206-1774

名古屋支社 〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番1号十六銀行名古屋ビル12階
TEL 052-961-3690 FAX 052-961-3631

関連 URL <https://www.densan-s.co.jp>
<https://www.dsk-idc.jp>